

【演題】

リハビリ病院における管理栄養士としての役割

【代表研究者】

診療部 栄養室 藤崎 三佳

【分担研究者】

診療部 栄養室 門松 真弓 福元 真衣 長野 ひとみ 八反丸 麻美子

【はじめに】

当院は病床数 155 床（回復期病棟 95 床、医療療養病棟 60 床）の混合型の病院である。平成 24 年度より管理栄養士を病棟配置し、他職種との関わりをもつ機会が増えた。そうした中で専門性を活かし連携していくために必要なことは何か疑問をもった。そこで、アンケートを実施し要求・実態の把握をするとともに、栄養の知識と関心の向上を図るため資料配布を行ったので以下に報告する。

【対象及び方法】

病棟スタッフ 127 名（医師 6 名、Ns34 名、CW25 名、PT・OT・ST 計 56 名、薬剤師 3 名、MSW3 名）に対し平成 25 年 2 月に「栄養に関するアンケート」を実施。同年 5 月初旬に同対象者へ栄養に関する項目についての資料を配布。同年 6 月に 2 度目のアンケートを行い、栄養情報提供の前後でどのような変化がみられたか比較した。

【結果】

栄養の知識への関心度は上昇し、数値的には習熟度も上昇した。しかし、詳しく内容を分析すると栄養の知識は習得しているが実践に十分に活かしきれているとは言い難いものだった。

【まとめ】

今回を通し、栄養の知識を他職種が日々の業務の中で役立てるためには更なる内容理解が必要となることを感じた。また、他職種が栄養士に求めるものは 栄養知識・情報の発信 患者層に合わせた献立・形態の検討 患者・その家族への指導などだった。今後は勉強会の開催や意見交換などを通し連携していくことでチーム医療における栄養士の役割を担っていきたい。